

PDCAサイクル表 (中長期計画・2018~2023年度分)

大項目	中項目	小項目	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度			
			評価 (○,△,×)	コメント	評価 (○,△,×)	コメント	評価 (○,△,×)	コメント	評価 (○,△,×)	コメント	評価 (○,△,×)	コメント	評価 (○,△,×)	コメント		
教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	国家試験合格者の維持・向上	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：英語復習、看護学科：(以下13学科) 国家試験合格者の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：第3、4年生を対象とした模擬試験と国家試験ガイダンス、4年生を対象とした総合実力試験、4年生を対象に夏期休暇時と年間を通しての国試対策補講、卒業論文指導教員による個々の能力、状況に応じた個別学習支援及び4年生を対象として国家試験マッピンググループで作成した国試対策用補充穴書きを用いたの国家試験に向けての補強指導を実施した。 ○ 看護学科：計画通り、国家試験の合格者の維持(100%)のために、年間に実施する模擬試験の回数を増やし、学生の習熟度の評価を細かく行った。またカリキュラム外の模試の回数も増やすなどの対策を行ったが、目標の合格率を達成することができなかった。 ○ 看護学科：補講および模擬試験等、国家試験対策を例年通り実施したものの、看護師・保健師とも不合格率があった。成績不振者として注意している学生であったが、不合格という結果であった。今後、成績不振学生を早期に把握し、対応していく必要がある。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、国家試験合格者の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。 ○ 国文学科：新学期オリエンテーションに第3、4年生を対象とした実力試験と国家試験に向けてのガイダンスを行い早期より国試対策に対する意識を高めた。年間を通して4年生を対象とした総合実力試験、夏期休暇時と年間を通しての国試対策補講、卒業論文指導教員による個々の能力、状況に応じた個別学習指導を行った。また4年生を対象とした国家試験マッピンググループ作成の国試対策用補充穴書きを用いて特に成績下位の学生にに向けての補強指導を実施した。 ○ 看護学科：計画通り、国家試験の合格者の維持(100%)のために、年間に実施する模擬試験の回数を増やし、学生の習熟度の評価を細かく行った。またカリキュラム外の模試の回数も増やすなどの対策を行ったが、目標の合格率を達成することができなかった。 ○ 看護学科：補講および模擬試験等、国家試験対策を例年通り実施し、看護師は全員合格した。保健師は不合格者がいたため、今後成績不振学生を把握し早期に対応していく必要がある。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、国家試験合格者の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。 ○ 国文学科：新学期オリエンテーションに第3、4年生を対象とした実力試験と国家試験に向けてのガイダンスを行い早期より国試対策に対する意識を高めた。年間を通して4年生を対象とした総合実力試験、夏期休暇時と年間を通しての国試対策補講、卒業論文指導教員による個々の能力、状況に応じた個別学習指導を行った。また4年生を対象とした国家試験マッピンググループ作成の国試対策用補充穴書きを用いて特に成績下位の学生にに向けての補強指導を実施した。 ○ 看護学科：計画通り、国家試験の合格者の維持(100%)のために、年間に実施する模擬試験の回数を増やし、学生の習熟度の評価を細かく行った。またカリキュラム外の模試の回数も増やすなどの対策を行ったが、目標の合格率を達成することができなかった。 ○ 看護学科：補講および模擬試験等、国家試験対策を例年通り実施し、看護師は全員合格した。保健師は不合格者がいたため、今後成績不振学生を把握し早期に対応していく必要がある。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、国家試験合格者の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。 ○ 国文学科：新学期オリエンテーションに第3、4年生を対象とした実力試験と国家試験に向けてのガイダンスを行い早期より国試対策に対する意識を高めた。年間を通して4年生を対象とした総合実力試験、夏期休暇時と年間を通しての国試対策補講、卒業論文指導教員による個々の能力、状況に応じた個別学習指導を行った。また4年生を対象とした国家試験マッピンググループ作成の国試対策用補充穴書きを用いて特に成績下位の学生にに向けての補強指導を実施した。 ○ 看護学科：計画通り、国家試験の合格者の維持(100%)のために、年間に実施する模擬試験の回数を増やし、学生の習熟度の評価を細かく行った。またカリキュラム外の模試の回数も増やすなどの対策を行ったが、目標の合格率を達成することができなかった。 ○ 看護学科：補講および模擬試験等、国家試験対策を例年通り実施し、看護師は全員合格した。保健師は不合格者がいたため、今後成績不振学生を把握し早期に対応していく必要がある。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、国家試験合格者の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。 ○ 国文学科：新学期オリエンテーションに第3、4年生を対象とした実力試験と国家試験に向けてのガイダンスを行い早期より国試対策に対する意識を高めた。年間を通して4年生を対象とした総合実力試験、夏期休暇時と年間を通しての国試対策補講、卒業論文指導教員による個々の能力、状況に応じた個別学習指導を行った。また4年生を対象とした国家試験マッピンググループ作成の国試対策用補充穴書きを用いて特に成績下位の学生にに向けての補強指導を実施した。 ○ 看護学科：計画通り、国家試験の合格者の維持(100%)のために、年間に実施する模擬試験の回数を増やし、学生の習熟度の評価を細かく行った。またカリキュラム外の模試の回数も増やすなどの対策を行ったが、目標の合格率を達成することができなかった。 ○ 看護学科：補講および模擬試験等、国家試験対策を例年通り実施し、看護師は全員合格した。保健師は不合格者がいたため、今後成績不振学生を把握し早期に対応していく必要がある。 		
		成績上位者に対する研究意欲向上のための施策	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：卒業研究の早期開始(成績上位者)。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：各教員が学生の状況を見ながら働きかけるよう心がけたところ、一年生の一名が、4年次の全国学生発表会を目指して研究を始めた。日々の勉強に励み、研究に着手できる学生は少ないのが現状である。 	△	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：各教員が学生の状況を見ながら働きかけるよう心がけが研究に着手できる学生は少ないのが現状である。しかし3年後期で卒業研究に入る際には研究に非常に興味を持って着手する学生が増えた。このような学生がさらに研究や大学院での研究に興味を持つよう指導したい。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：引き続き、卒業研究の早期開始(成績上位者)。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。
		出席管理の徹底による出席不良者への指導	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：出席が多い学生、成績不良の学生に対し、学生アドバイザーによる早期対応ができた。 ○ 看護学科：アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)を活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ○ 看護学科：出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：出席が多い学生、成績不良の学生に対し、学生アドバイザーによる早期対応ができた。 ○ 看護学科：アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)を活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ○ 看護学科：出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：出席が多い学生、成績不良の学生に対し、学生アドバイザーによる早期対応ができた。 ○ 看護学科：アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)を活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ○ 看護学科：出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。
		学力把握のためのアドバイザー制度の充実	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：各学年にアドバイザーを置き、教務課、当該学年の授業担当者と連携して学生の状況を把握した。成績不良者に対しては早期に面談を行い、学生相談室とも連携して指導した。またその状況を毎月の学科会議の学生の動向で報告した。 ○ 看護学科：期末試験終了後、教員へ成績一覧を配布し、再試験科目の多い学生について、情報共有を徹底したことで、アドバイザーから早期の指導を行うことができた。 ○ 看護学科：成績不良学生へのアドバイザーによる成績の把握および指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：各学年にアドバイザーを置き、アクティブポータルの利用や当該学年の科目担当者、教務課、学生課、学生相談室と連携して学生の状況を把握した。成績不良者に対しては早期に面談を行い、その状況を毎月の学科会議の学生の動向で報告し、学科全教員でその状況を共有し教員でのサポート体制を取った。 ○ 看護学科：期末試験終了後、教員へ成績一覧を配布し、再試験科目の多い学生について、情報共有を徹底したことで、アドバイザーから早期の指導を行うことができた。 ○ 看護学科：成績不良学生へのアドバイザーによる成績の把握および指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：各学年にアドバイザーを置き、アクティブポータルの利用や当該学年の科目担当者、教務課、学生課、学生相談室と連携して学生の状況を把握した。成績不良者に対しては早期に面談を行い、その状況を毎月の学科会議の学生の動向で報告し、学科全教員でその状況を共有し教員でのサポート体制を取った。 ○ 看護学科：期末試験終了後、教員へ成績一覧を配布し、再試験科目の多い学生について、情報共有を徹底したことで、アドバイザーから早期の指導を行うことができた。 ○ 看護学科：成績不良学生へのアドバイザーによる成績の把握および指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。
		カリキュラムの検討及び改善	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：前年度から新カリキュラムを置き、教務課、当該学年の授業担当者として、選科科目の必要、担当指導教員の決り、学生数が4名を超えれば、問題点などについて協議した。結論に至らず、講師以下の先生方、准教授の先生方にそれぞれ協議してもらい、その意見も含めて最終協議とする。 ○ 看護学科：厚生労働省より出されている看護整備推進施設設置指定規則等改正に対応したカリキュラムの見直しを行い、2019年度入学生のカリキュラムに反映させた。 ○ 看護学科：2018年度前半に新カリキュラム改定の準備を終え、2019年度から新カリキュラムの導入予定。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：前年度から新カリキュラムを置き、アクティブポータルの利用や当該学年の科目担当者、教務課、学生課、学生相談室と連携して学生の状況を把握した。成績不良者に対しては早期に面談を行い、その状況を毎月の学科会議の学生の動向で報告し、学科全教員でその状況を共有し教員でのサポート体制を取った。 ○ 看護学科：期末試験終了後、教員へ成績一覧を配布し、再試験科目の多い学生について、情報共有を徹底したことで、アドバイザーから早期の指導を行うことができた。 ○ 看護学科：成績不良学生へのアドバイザーによる成績の把握および指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：前年度から新カリキュラムを置き、アクティブポータルの利用や当該学年の科目担当者、教務課、学生課、学生相談室と連携して学生の状況を把握した。成績不良者に対しては早期に面談を行い、その状況を毎月の学科会議の学生の動向で報告し、学科全教員でその状況を共有し教員でのサポート体制を取った。 ○ 看護学科：期末試験終了後、教員へ成績一覧を配布し、再試験科目の多い学生について、情報共有を徹底したことで、アドバイザーから早期の指導を行うことができた。 ○ 看護学科：成績不良学生へのアドバイザーによる成績の把握および指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。

PDCAサイクル表 (中長期計画・2018~2023年度分)

大項目	中項目	小項目	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度			
			評価(○,△,×)	実働結果 コメント	評価(○,△,×)	実働結果 コメント	評価(○,△,×)	実働結果 コメント	評価(○,△,×)	実働結果 コメント	評価(○,△,×)	実働結果 コメント	評価(○,△,×)	実働結果 コメント		
18	教育研究等の質の向上	留年者、退学者対策	○3学科、学務部 退学者の原因分析調査を実施し、学修行動調査との連携で退学要因の分析を行い、現在大学の歩留率は割合79%、卒業率81%、看護88%であり、これらを減少・卒業10%、看護5%を目標として対策を講じた。 ① 入学前・入学以降の学生支援内容の学内共有化により、退学意向の早期発見・予防支援の学内体制強化。さらに成績・欠席・学費納入情報の共有。 ② 学生相談室と教員の連携推進により、学生相談室の機能を強化し支援学生への早期対応を実施。 ③ 経済困難者への学内授業料免除制度を制定。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎ ・学務部：○	・履次学科 各学年アドバイザーは当該学年の学生の出入をアクティブポータルでチェックし、問題のある学生については学内の共有ファイルに記入及び個別指導を行った。結果は毎月学科会議で学生の動向として報告した。 ・柔道整復学科 学内に設置されている学生総合支援室と密に連携を取ることで、成績不良や欠席の多い学生、および大学での学業に不安を抱える学生に対して、早期の対応が可能となり、退学者の減少につながった。 また経済困難者に対する学内授業料免除制度を開始できたことで、退学者対策が十分に行えた。 ・看護学科 アドバイザー・アドバイザーリーダーによる成績不振者、出席不振者への個別対応を行い、ポータルサイトを用いその共有化を推進し、年度途中における成績不振者、出席不振者およびその対応の評価をした。 ・学務部 1) 学生アドバイザーの学生面接を実施。退学・留年の早期予防を図る。 2) 学生相談と教員連携の機会が増加した。学生総合支援室設置の体制整備の準備をした。(規制の制定、改正etc) 3) 経済困難者への授業料免除制度を改正した。 2019年度より運用する。	○3学科、学務部 引き続き、退学者の原因分析調査を実施し、学修行動調査との連携で退学要因の分析を行い、対策を実施。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎ ・学務部：○									
			○3学科 ・低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の設置。研修生・研究生・外部者などの有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上を目指した補講の実施。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科	・履次学科 1. 2年生については、各学年の学生アドバイザーを中心に中間・期末試験の結果を基に、成績不良者について指導を行った。3年生については必要に応じて卒業指導、国家試験ワーキンググループによる補講を行った。4年生に対しては夏休み期間中に含める有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。 ・柔道整復学科 進級要件の変更に伴い、早期より学生に対して試験対策を含めたアプローチを行ったことで、留年者、退学者の大幅な減少につながった。	○3学科 引き続き、 ・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：○	○3学科 引き続き、 ・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：○	○3学科 引き続き、 ・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：○								
			○3学科 アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	・履次学科 当該学生を担当する学生アドバイザーを中心に学生に注意喚起、面談等を行った。 アラートメールの活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ・看護学科 出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー・学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。								
19	教育研究等の質の向上	退学者の改善	○3学科 アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	・履次学科 アクティブポータルにより早期に欠席の多い学生を見つけた。各学年を担当する学生アドバイザーを中心に学生を指導し、面談等を行った。必要に応じて学生相談室と連携し指導を行った。出席不足による学期末試験受験不可者の減少につながったと思われる。 ・柔道整復学科 アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)を活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ・看護学科 出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー・学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。			
			○3学科 アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	・履次学科 アクティブポータルにより早期に欠席の多い学生を見つけた。各学年を担当する学生アドバイザーを中心に学生を指導し、面談等を行った。必要に応じて学生相談室と連携し指導を行った。出席不足による学期末試験受験不可者の減少につながったと思われる。 ・柔道整復学科 アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)を活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ・看護学科 出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー・学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。		
20	出欠管理の徹底	出欠管理の徹底	○3学科 アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	・履次学科 当該学生を担当する学生アドバイザーを中心に学生に注意喚起、面談等を行った。 アラートメールの活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ・看護学科 出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー・学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。			
			○3学科 アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	・履次学科 当該学生を担当する学生アドバイザーを中心に学生に注意喚起、面談等を行った。 アラートメールの活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ・看護学科 出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー・学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。		

PDCAサイクル表 (中長期計画・2018~2023年度分)

大項目	中項目	小項目	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
			評価項目	実施結果	評価項目	実施結果	評価項目	実施結果	評価項目	実施結果	評価項目	実施結果	評価項目	実施結果
21	教育研究等の質の向上	アドバイザーによる成績不良等要指導者に対する継続指導の徹底	○3学科 学生の現状把握とときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	○臨床学科 ○薬学学科 ○看護学科 1,2,3年生については各学期の終了後、学生アドバイザーが担当学年の成績を確認し、成績不良者に対しては学生面談、更に必要があれば保護者面談を実施した。 4年生については夏休み前に、それまでの総合実力試験の状況を保護者に面会（成績のレベルにより面会の内容が異なる）にて連絡し、必要に応じて、あるいは希望者に対し保護者面談を行った。 ・薬学復修学科 アラートメールの活用、教員間での成績の共有、学科会議時に学生の動向（気になる学生）の報告を行うことで、早期にアドバイザーが指導を行うことができた。 ・看護学科 アドバイザー、アドバイザーラーによる成績不振者への個別対応の充実。	○3学科 学生の現状把握とときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	○臨床学科 ○薬学学科 ○看護学科 1,2,3年生については各学期の終了後、学生アドバイザーが担当学年の成績を確認し、成績不良者に対しては学生面談、更に必要があれば保護者面談を実施した。 4年生については夏休み前に、それまでの総合実力試験の状況を保護者に面会（成績のレベルにより面会の内容が異なる）にて連絡し、必要に応じて、あるいは希望者に対し保護者面談を行った。また全学年について、学科会議の各学年のアドバイザーによる学生の動向報告において、当該学年科担当学生などの有効利用開始。	○3学科 学生の現状把握とときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	○3学科 学生の現状把握とときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	○3学科 学生の現状把握とときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	○3学科 学生の現状把握とときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	○3学科 学生の現状把握とときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	○3学科 学生の現状把握とときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	○3学科 学生の現状把握とときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。	○3学科 学生の現状把握とときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。
		学生支援室(特別支援教室)設置および支援室への大学院生・研究生・卒業生などの有効利用	○3学科、学務部 教員と学生相談室間のネットワークの充実させるための学生支援室（特別支援教室）設置の検討。	○臨床学科 ○薬学学科 ○看護学科 ○学務部 学生相談室との連携により学生の支援をよりきめ細かに行なった。 ・薬学復修学科 学内に設置されている学生総合支援室と密に連携を取ることで、大学院生でなど大学での生活に不安を抱える学生に対して早期にアプローチを行う体制が整った。 ・看護学科 必要時、カウンセラー・学生課と連携し、学生への対応を行う体制を整え、学生の支援を行った。 ・学務部 学生総合支援室設置準備は2018年に出来た。2019年度から運用開始する。	○3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研究生・研究生・外部者などの有効利用開始。	○3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研究生・研究生・外部者などの有効利用開始。								
22	退学率の改善	経済的側面に対する支援制度の継続実施	○財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。	○財務部 ・財務部 財源確保と授業料免除等規則の改正を行い、経済的理由(家計急変を含む)による授業料納入困難者も授業料免除の対象者に拡大し、中途退学防止策とした。	○財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。	○財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。								
		保険者との連携強化	○3学科 退学者の未然防止のため、保険者への成績表の郵送および、必要時、保険者面談を実施。	○臨床学科 ○薬学学科 ○看護学科 1,2,3年生については各学期の終了後、学生アドバイザーが担当学年の成績を確認し、成績不良者に対しては学生面談、更に必要があれば保護者面談を実施した。 4年生については夏休み前に、それまでの総合実力試験の状況を保護者に面会（成績のレベルにより面会の内容が異なる）にて連絡し、必要に応じて、あるいは希望者に対し保護者面談を行った。 ・薬学復修学科 各学期の終了後（年間2回）、保険者へ成績表の郵送を行った。また成績不良者に対してアドバイザーと保険者を含めた3者面談を実施し、退学率の改善に努めた。 ・看護学科 必要時、保険者面談を実施し、就学継続を確認し、保険者と連携して学生の支援を行った。就学継続が困難なケースについて、理由を明確にし、入学者選抜試験を検討する際の資料とする。	○3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保険者への成績表の郵送および、必要時、保険者面談を実施。	○臨床学科 ○薬学学科 ○看護学科 1,2,3年生については各学期の終了後、学生アドバイザーが担当学年の成績を確認し、成績不良者に対しては必要に応じて保険者面談を実施した。 4年生については夏休み前に、それまでの総合実力試験の状況を保護者に面会（成績のレベルにより面会の内容が異なる）にて連絡し、必要に応じて、あるいは希望者に対し保険者面談を行った。 ・薬学復修学科 各学期の終了後（年間2回）、保険者へ成績表の郵送を行った。また成績不良者に対してアドバイザーと保険者を含めた3者面談を実施し、退学率の改善に努めた。 ・看護学科 必要時、保険者面談を実施し、就学継続を確認し、保険者と連携して学生の支援を行った。就学継続が困難なケースについて、理由を明確にし、入学者選抜試験を検討する際の資料とする。								
23	入学時点におけるミスマッチの防止	指定校推薦入試の強化	○看護学科 指定校推薦入試の強化。	○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。	○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の強化。	○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。	○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の強化。	○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。	○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の強化。	○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。	○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の強化。	○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。	○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の強化。	○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。
		学務システムの改善と有効活用	○情報センター 学務システムの有効活用。	○情報センター 国家試験、資格試験の受験結果が学務システムに保存されており、研習などの情報と連携が図れていたが、保存のための統計を行い、入力形式の仕様を作成し、学務システムのバージョンアップを予定完了した。国家試験、資格試験の管理を行うようにした。	○情報センター 学務システムの有効活用について取り組み着手。学務システムのバージョンアップ(予定)。	○情報センター 学務システムのバージョンアップを予定完了した。国家試験、資格試験の管理を行うようにした。	○情報センター 学務システムの有効活用を推進。	○情報センター 学務システムの活用状況を検証。	○情報センター 学務システムの活用状況を検証。	○情報センター 学務システムの活用状況を検証。	○情報センター 学務システムの活用状況を検証。	○情報センター 学務システムの活用状況を検証。	○情報センター 学務システムの活用状況を検証。	○情報センター 学務システムの活用状況を検証。
24	地域連携の構築	治療体験・健康相談等実施(附属鍼灸センター)	○鍼灸学科 鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力推進。	○鍼灸学科 大学假期中の鍼灸センターでの鍼灸体験施設の実施(10月27、28日)、ミライガク2018(6月9日)、有明5年30年対抗運動会(7月8日)、有明祭り(10月13日)、古石塚文化センターまつり(10月14日)、豊洲フェスタ(10月27、28日)、大学祭(10月27、28日)、スポーツ学科学フェスティバル(2月9日)での鍼灸ブースの出店。	○鍼灸学科 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力推進。	○鍼灸学科 大学假期中の鍼灸センターでの鍼灸体験施設の実施(11月3、4日)、有明祭り(9月7日)、豊洲フェスタ(10月26、27日)、NPOサイエンススタジアム2019(12月7、8日)、スポーツ学科学フェスティバル(2月16日)での鍼灸ブースの出店。一橋のゆめ研団主催「一橋のゆめフェスタ2019」第2回あんまふしや「マッサージ指圧コンテスト」の開催協力(9月21日)。								
		指定校推薦入試の強化	○看護学科 指定校推薦入試の強化。	○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。	○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の強化。	○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。	○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の強化。	○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。	○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の強化。	○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。	○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。	○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の強化。	○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。	○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びついた。

PDCAサイクル表（中長期計画・2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度		実施結果		2019年度		実施結果		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度					
			評価 (A, B, C)	コメント	評価 (A, B, C)	コメント	評価 (A, B, C)	コメント	評価 (A, B, C)	コメント	評価 (A, B, C)	コメント	評価 (A, B, C)	コメント	評価 (A, B, C)	コメント	評価 (A, B, C)	コメント				
40	教育研究等の質の向上	国際交流推進	◎	○学務部 国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制） ○大学間交流協定に基づく交流の活性化（派遣と受入） → 具体的な案件対応を踏まえて、支援体制を毎年段階的に整備強化していく。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学推進支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。	◎	1) 学生支援課の海外留学支援制度（協定派遣・受入）に派遣支援学科、看護学科から各2件応募し、協定派遣で各学科1件、合計2件採択された。 2) シンガポール研修実施（看護）派遣（3月）と受け入れ（7月）。 3) イリノイ大学と大学間協定締結。 4) チャールズ・スタート大学看護学部と交流覚書調印。 5) モンゴル国立医療科学大学学長他来学・同大学から短期留学生導入、本学鍼灸学科教員がモンゴル国立医療科学大学で講演・実技指導。	◎	○学務部 引き続き、国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制）を継続。 ○大学間交流協定に基づく交流の活性化（派遣と受入） → 具体的な案件対応を踏まえて、支援体制を毎年段階的に整備強化していく。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学派遣支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。	◎	○学務部 引き続き、国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制）を継続している。 モンゴル伝統医療学校4年生（17名）が実習に来日した。	◎	○学務部 引き続き、国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制）を継続。 ○大学間交流協定に基づく交流の活性化（派遣と受入） → 具体的な案件対応を踏まえて、支援体制を毎年段階的に整備強化していく。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学派遣支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。	◎	○学務部 引き続き、国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制）を継続。 ○大学間交流協定に基づく交流の活性化（派遣と受入） → 具体的な案件対応を踏まえて、支援体制を毎年段階的に整備強化していく。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学派遣支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。								
		MOPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学への教員派遣と学生研修	◎	○鍼灸学科 教育の質の向上を目的とし、MOPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	◎	2019年度ポストン研修に向け準備をした。	◎	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MOPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	◎	1) 2019年度ポストン研修を2019年6月4日～11日に実施し39名（本学鍼灸学科学生27名と大学院生3名、日本鍼灸理療専門学校生9名）が参加した。Massachusetts College of Pharmacy and Health Sciences (MCPHS大学：マサチューセッツ薬科健康科学大学)での国際交流センターによる講義、Harvard Medical School においてのTed Kaplan教授の講義、MGH/HST Marina Center for Biomedical ImagingでのJan Kongzong教授の講義、イリノイ大学Judith Schlaeger准教授の講義、NESAの日本鍼部部長Diane先生の講義などを受けた。そのほかマサチューセッツ総合総合病院、MIT博物館、ボストン美術館などの見学も行った。 2) 学外実習の中で、東京大学附属病院リハビリテーション科、埼玉医科大学病院東洋医学科において大学病院での鍼灸治療やチーム医療の実践について研修を行った（9月2、3日）。	◎	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	◎	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	◎	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	◎	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	◎	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。		
		シンガポール国立大学看護学部	◎	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	2018年度学生受け入れ（2018年7月10名）、派遣実施（2018年3月3名）。	◎	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	2019年度学生受け入れ（2019年7月10名）、派遣は新型コロナウイルス感染症のため中止。	◎	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。 （追加）世界的な新型コロナウイルス感染症の感染状況を見て計画変更または実施。JASSO協定派遣は2020年度実施予定。	◎	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。		
		オーストラリアCharles Sturt大学	◎	○看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の準備開始。	◎	学生派遣、受け入れに向けた準備継続	◎	○看護学科 学生派遣、受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	学生派遣、受け入れに向けた準備継続	◎	○看護学科 学生派遣、受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	○看護学科 学生派遣、受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	○看護学科 学生派遣、受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	○看護学科 学生派遣、受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	○看護学科 学生派遣、受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。		
		モンゴル国立医療科学大学	◎	○派遣支援学科 これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	モンゴル国立医療科学大学への教員派遣を行った。2018年度は8名の教員が派遣され、5月と9月の約2か月の講義・実習を行った。またモンゴル国立医療科学大学より、3年生の女子学生の短期留学（約5か月）の受け入れを行った。	◎	○派遣支援学科 引き続き、これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	モンゴル国立医療科学大学への教員派遣を行った。2019年度は8名の教員が派遣され、5月と9月の約2か月の講義・実習を行った。またモンゴル国立医療科学大学より、4年生17名の短期研修（18日間）の受け入れを行った。	◎	○派遣支援学科 引き続き、これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	○派遣支援学科 引き続き、これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	○派遣支援学科 引き続き、これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	○派遣支援学科 引き続き、これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	○派遣支援学科 引き続き、これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。		
		麗仁大学校（韓国）	◎	○派遣支援学科 これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	龍武遠を通じて、韓国・麗仁大学校と交流を行った。2016年に開催された龍武遠の世界大会では6名の女子学生が参加し、3名が上位入賞を果たした実績がある。2019年に開催される世界大会にも出場予定であり、その準備を行った。	◎	○派遣支援学科 引き続き、派遣（派遣・龍武遠）を通じて大学間連携の継続推進。	◎	龍武遠を通じて、韓国・麗仁大学校と交流を行った。2019年に開催された龍武遠の世界大会では3名の女子学生が参加し、3名が上位入賞を果たした。	◎	○派遣支援学科 引き続き、派遣（派遣・龍武遠）を通じて大学間連携の継続推進。	◎	○派遣支援学科 引き続き、派遣（派遣・龍武遠）を通じて大学間連携の継続推進。	◎	○派遣支援学科 引き続き、派遣（派遣・龍武遠）を通じて大学間連携の継続推進。	◎	○派遣支援学科 引き続き、派遣（派遣・龍武遠）を通じて大学間連携の継続推進。	◎	○派遣支援学科 引き続き、派遣（派遣・龍武遠）を通じて大学間連携の継続推進。	◎	○派遣支援学科 引き続き、派遣（派遣・龍武遠）を通じて大学間連携の継続推進。
		国家試験結果の公表	◎	○事務局 HP等での国家試験結果の公表を開始。	◎	○事務局 過去に実施された国家試験結果（2017・2018年度）はHPに公表している。	◎	○事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。
47	教育成果の見える化	学生研究成果公表	△	○鍼灸学科 学生研究成果の学会発表、HP等での公開。	△	○鍼灸学科 卒業研究を冊子にして図書館にて公開したが、学部生の全日本鍼灸学会での研究発表は実施できなかった。（学生の状況などにより毎年の発表は難しいと思われる。）来年度は学部生の全日本鍼灸学会での研究発表を目指す。HPでの公開についても検討を実施する。	△	○鍼灸学科 引き続き、学生研究成果の学会発表、HP等での公開。	△	○鍼灸学科 卒業研究を冊子にして図書館にて公開したが、学部生の全日本鍼灸学会での研究発表は実施できなかった。（学生の状況などにより毎年の発表は難しいと思われる。）来年度は学部生の全日本鍼灸学会での研究発表を目指す。HPでの公開についても検討を実施する。	△	○鍼灸学科 引き続き、学生研究成果の学会発表、HP等での公開。	△	○鍼灸学科 引き続き、学生研究成果の学会発表、HP等での公開。	△	○鍼灸学科 引き続き、学生研究成果の学会発表、HP等での公開。	△	○鍼灸学科 引き続き、学生研究成果の学会発表、HP等での公開。	△	○鍼灸学科 引き続き、学生研究成果の学会発表、HP等での公開。		

PDCAサイクル表（中長期計画・2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
			評価 (◎, ○, △, ×)	実績結果 コメント	評価 (◎, ○, △, ×)	実績結果 コメント	評価 (◎, ○, △, ×)	実績結果 コメント	評価 (◎, ○, △, ×)	実績結果 コメント	評価 (◎, ○, △, ×)	実績結果 コメント	評価 (◎, ○, △, ×)	実績結果 コメント
財政基盤の安定	外部資金の獲得	科研費の積極的確保	×	○公的研究支援室 採択数の増加を目指す場合、 不十分な結果に終わってしまった。また科研費の応募者数も減少した。そのため、科研費研修において、科研費応募要領に精通した講師を招聘してセミナーを実施する。	○	○公的研究支援室 昨年の反省も踏まえ、外部の 院の高い教育の実施したものの 不十分な結果に終わってしまった。また科研費の応募者数も減少であった。	○	○公的研究支援室 外部講師の招聘、及び科研費獲得を目的とした外部 セミナーへの参加しての情報提供、更に文科省以外 の院の高い教育の実施したものの 不十分な結果に終わってしまった。また科研費の応募者数も減少であった。	○	○公的研究支援室 申請状況の検証 (追加) 新たな若い研究者も 増えている中、一問一答しての 研修等を実施する等を見直す 必要がある。現在の社会情勢 も踏まえ、若い研究者を中心 に勉強会を複数実施する等 の方法により情報提供を認 めていく。	○	○公的研究支援室 申請状況の検証	○	○公的研究支援室 申請状況の検証
		科研費等研究助成事業	○	○3学科 科研費等研究助成事業へのさら なる積極的な応募。	○	○3学科 引き続き、科研費等研究助成 事業へのさらなる積極的な応 答。	○	○3学科 引き続き、科研費等研究助成 事業へのさらなる積極的な応 答。	○	○3学科 引き続き、科研費等研究助成 事業へのさらなる積極的な応 答。	○	○3学科 引き続き、科研費等研究助成 事業へのさらなる積極的な応 答。	○	○3学科 引き続き、科研費等研究助成 事業へのさらなる積極的な応 答。
		経常費補助金の増加	○	○財務部、学務部 特別補助について、取り組 むものから積極的に実施して いくための事業のピックアップ を実施。	○	○財務部、学務部 東京有明医療大学授業料免除等規則の改正を行い、 経済的理由(家計急変を含む)による授業料納入困難者 も授業料免除の対象者に拡大したことから、新たに 特別補助の対象となる。 ・学務部 特別補助を受けるため、厳格検討を行った。しか し、結果的には申請の基準点数に達しなかったた め、申請を断念した。	○	○財務部、学務部 東京有明医療大学授業料免除等規則の改正を行い、 経済的理由(家計急変を含む)による授業料納入困難者 も授業料免除の対象者に拡大したことから新たな特 別補助を獲得できた。 ・学務部 学業成績優秀者制度を見直し、経済困難者の授業料 減免制度の内容を充実させた。	○	○財務部、学務部 学内ワークスタディ事業につ いて実施できないかの検討実 施。 (追加) 中途退学者の減少による定員 充足率の上昇に伴う補助金の 増減率を向上させる。	○	○財務部、学務部 学内ワークスタディ事業の 実施。	○	○財務部、学務部 取組可能事項の検討。
		外部資金のデータベース整理	○	○3学科 外部資金のデータベース整 理、および、外部資金獲得の ため、若手教員に対して申請 書類作成指導を実施。	○	○3学科 引き続き、外部資金のデータ ベース整理。および、外部資 金獲得のため、若手教員に対 して申請書類作成指導を実 施。	○	○3学科 引き続き、外部資金のデータ ベース整理。および、外部資 金獲得のため、若手教員に対 して申請書類作成指導を実 施。	○	○3学科 引き続き、外部資金のデータ ベース整理。および、外部資 金獲得のため、若手教員に対 して申請書類作成指導を実 施。	○	○3学科 引き続き、外部資金のデータ ベース整理。および、外部資 金獲得のため、若手教員に対 して申請書類作成指導を実 施。	○	○3学科 引き続き、外部資金のデータ ベース整理。および、外部資 金獲得のため、若手教員に対 して申請書類作成指導を実 施。
		外部資金のデータベース整理および競争的資金の獲得に向けた応募の推奨	○	○3学科 外部資金（競争的資金）の獲得のために、財務部主 催の科研費公募要領説明会（採択経験者の報告を含 む）に積極的に参加した(9/27開催)。 また若手研究者の作成した科研費申請書類に対 して、学科内の教授により指導が行われた。	○	○3学科 引き続き、外部資金のデータ ベース整理。および、外部資 金獲得のため、若手教員に対 して申請書類作成指導を実 施。	○	○3学科 引き続き、外部資金のデータ ベース整理。および、外部資 金獲得のため、若手教員に対 して申請書類作成指導を実 施。	○	○3学科 引き続き、外部資金のデータ ベース整理。および、外部資 金獲得のため、若手教員に対 して申請書類作成指導を実 施。	○	○3学科 引き続き、外部資金のデータ ベース整理。および、外部資 金獲得のため、若手教員に対 して申請書類作成指導を実 施。	○	○3学科 引き続き、外部資金のデータ ベース整理。および、外部資 金獲得のため、若手教員に対 して申請書類作成指導を実 施。
		学内特別研究費	○	○3学科 申請書の作成に当たり必要に応じて相互協力また は指導をし、2名の教員が学内特別研究費を申請し 申請書も採択された。 ・薬学 特別研究費の募集に対して、積極的に応募し、4名 (うち1名は教育改革推進費)が採択された。 ・看護学 特別研究費への応募を行った。	○	○3学科 引き続き、申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運 用。 特別研究費の募集に対して、積極的に応募し、4名 (うち1名は教育改革推進費)が採択された。 ・看護学 特別研究費への応募を行った。	○	○3学科 引き続き、申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運 用。 特別研究費の募集に対して、積極的に応募し、4名 (うち1名は教育改革推進費)が採択された。 ・看護学 特別研究費への応募を行った。	○	○3学科 引き続き、申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運 用。 特別研究費の募集に対して、積極的に応募し、4名 (うち1名は教育改革推進費)が採択された。 ・看護学 特別研究費への応募を行った。	○	○3学科 引き続き、申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運 用。 特別研究費の募集に対して、積極的に応募し、4名 (うち1名は教育改革推進費)が採択された。 ・看護学 特別研究費への応募を行った。	○	○3学科 引き続き、申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運 用。 特別研究費の募集に対して、積極的に応募し、4名 (うち1名は教育改革推進費)が採択された。 ・看護学 特別研究費への応募を行った。
教員研究の推進のための学際共同研究費による萌芽的研究助成	○	○看護学 学際共同研究費による萌芽的 研究助成	○	○看護学 引き続き、学際共同研究費に よる萌芽的研究助成。	○	○看護学 引き続き、学際共同研究費に よる萌芽的研究助成。	○	○看護学 引き続き、学際共同研究費に よる萌芽的研究助成。	○	○看護学 引き続き、学際共同研究費に よる萌芽的研究助成。	○	○看護学 引き続き、学際共同研究費に よる萌芽的研究助成。		
人件費の抑制	教員	教員	○	○3学科 採薬数/週に基づく教員の再構 成	○	○3学科 引き続き、採薬数/週に基づく 教員の再構成。 本年度は再構成に至らなかったが、次年度より、実 技科目に関しては、補助教員によるサポートを行う 体制をとる。 ・看護学 採薬数/週に基づく教員の再構成を行った。	○	○3学科 引き続き、採薬数/週に基づく 教員の再構成。 本年度は再構成に至らなかったが、次年度より、実 技科目に関しては、補助教員によるサポートを行う 体制をとる。 ・看護学 採薬数/週に基づく教員の再構成を行った。	○	○3学科 引き続き、採薬数/週に基づく 教員の再構成。 本年度は再構成に至らなかったが、次年度より、実 技科目に関しては、補助教員によるサポートを行う 体制をとる。 ・看護学 採薬数/週に基づく教員の再構成を行った。	○	○3学科 引き続き、採薬数/週に基づく 教員の再構成。 本年度は再構成に至らなかったが、次年度より、実 技科目に関しては、補助教員によるサポートを行う 体制をとる。 ・看護学 採薬数/週に基づく教員の再構成を行った。		
		人件費の抑制	○	○法人本部 令和2年までの3年間、学生 確保の動向を見極める。	○	○法人本部 引き続き、令和2年までの3 年間、学生確保の動向を見極 める。	○	○法人本部 令和元年度においては、3学科全てにおいて定員充 足を達成した。引き続き次年度も学生確保の動向を 注視していく。	○	○法人本部 令和2年までの3 年間、学生確保の動向を見極 める。	○	○法人本部 令和2年までの3 年間、学生確保の動向を見極 める。		
			○	○学生確保の動向の確認した。	○	○学生確保の動向の確認した。	○	○学生確保の動向の確認した。	○	○学生確保の動向の確認した。	○	○学生確保の動向の確認した。		

PDCAサイクル表（中長期計画・2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度			
			評価(○,△,×)	コメント	評価(○,△,×)	コメント	評価(○,△,×)	コメント	評価(○,△,×)	コメント	評価(○,△,×)	コメント	評価(○,△,×)	コメント		
99	キャンパスの総合整備	学外への業務データ保管・二重化	○		○	情報センター 二重化技術の移行。	○	学内ファイルサーバにおける個人情報・業務情報の二重化を行い、災害時の情報資産の安全性を図る。Microsoft Azure Backup, Disk to Disk to Tape Backupの実現方法を学習した。	○	情報センター 業者と費用の調査開始。	○	情報センター 設計を確定、施工業者を決め着手。	○	情報センター 業務データの二重化を完成。		
		研究環境の整備	○		○		○	昨年引き続き検討したが、施設的な制約もあるため実施困難であると判断し、サークル活動の活性化支援に重点を置く方向で今後検討していくこととした。	○	学生委員会 サークル活動の活性化支援について検討。	○	学生委員会 引き続き、サークル活動の活性化支援について検討。	○	学生委員会 引き続き、サークル活動の活性化支援について検討。		
		課外活動団体の部室確保	○		○	学生委員会 大学の施設管理には予算上、実施上の制約があるため、まずは学内の要望を整理し実現可能性、実施可能性の高いものから順次取り組んでゆく。	○		○	学生委員会 引き続き、サークル活動の活性化支援について検討。	○	学生委員会 引き続き、サークル活動の活性化支援について検討。	○	学生委員会 引き続き、サークル活動の活性化支援について検討。		
		ネットワーク関係の整備	○		○	調査・検討を行い、整備に必要な予算申請を行った。しかし、2019年度予算にのみ認められなかったため、そのための計画を白紙に直し、2020年度以降に整備を行う計画で再度検討を計画する必要がある。	○	情報センター 無線・有線LANの整備に関する調査、検討を引き続き実施。予算の問題で借入を購入できない場合は、整備を2020年度以降に遅らせる。	○	情報センター 学内すべての施設での無線LAN使用可。 開学時より使用してきた基幹ネットワーク(有線LAN)の整備完了。高速で安定し、かつセキュリティな対外接続を維持するため、対外接続用のルータ・ファイアウォールの更新の検討を開始。	○	情報センター 現在接続している有線(SINET5)が終了する年度、次期SINETへの円滑な移行を実施。 対外接続用のルータ・ファイアウォールの次期の仕様を確定。	○	情報センター 次期SINETへの移行および対外接続用のルータ・ファイアウォールの更新を完了。		
		103	社会貢献・文化活動の推進	附属鍼灸センター	○		○	日常の鍼灸センターによる外来診療とともに、中高生を対象とした治療体験、大学祭や地域の運動会(7月8日)、有明祭(10月13日)、古石塚文化センターまつり(10月14日)、豊洲フェスティバル(10月27、28日)などのイベントにおいて治療体験や健康相談を附属鍼灸センター担当教員を中心に行った。	○	日常の鍼灸センターによる外来診療とともに、中高生を対象とした治療体験、大学祭(11月3、4日)、有明祭(10月13日)、古石塚文化センターまつり(9月7日)、豊洲フェスティバル(10月26、27日)NHKサイエンススタジアム2019(12月7、8日)、スポーツ医科学フェスティバル(2月16日)での鍼灸ブースの出店、などにおいて治療体験や健康相談を附属鍼灸センター担当教員を中心に行った。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。
				附属鍼灸センター	○		○	大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。	○	大学祭(11月3、4日)、有明祭(10月13日)、古石塚文化センターまつり(9月7日)、豊洲フェスティバル(10月26、27日)NHKサイエンススタジアム2019(12月7、8日)、スポーツ医科学フェスティバル(2月16日)での鍼灸ブースの出店、などの大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。一時的なため計画主催の「一柱のゆめフェスタ2019 第2回あん摩マッサージ指圧コンテスト」に鍼灸センター担当教員、研修生等が中心となり協力するとともに本学を会場として開催し地域住民に手技療法の啓蒙・普及を行った(9月21日)。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。
				附属鍼灸センター	○		○	大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。	○	大学祭(11月3、4日)、有明祭(10月13日)、古石塚文化センターまつり(9月7日)、豊洲フェスティバル(10月26、27日)NHKサイエンススタジアム2019(12月7、8日)、スポーツ医科学フェスティバル(2月16日)での鍼灸ブースの出店、などの大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。一時的なため計画主催の「一柱のゆめフェスタ2019 第2回あん摩マッサージ指圧コンテスト」に鍼灸センター担当教員、研修生等が中心となり協力するとともに本学を会場として開催し地域住民に手技療法の啓蒙・普及を行った(9月21日)。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。
				附属鍼灸センター	○		○	大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。	○	大学祭(11月3、4日)、有明祭(10月13日)、古石塚文化センターまつり(9月7日)、豊洲フェスティバル(10月26、27日)NHKサイエンススタジアム2019(12月7、8日)、スポーツ医科学フェスティバル(2月16日)での鍼灸ブースの出店、などの大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。一時的なため計画主催の「一柱のゆめフェスタ2019 第2回あん摩マッサージ指圧コンテスト」に鍼灸センター担当教員、研修生等が中心となり協力するとともに本学を会場として開催し地域住民に手技療法の啓蒙・普及を行った(9月21日)。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。
				附属鍼灸センター	○		○	大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。	○	大学祭(11月3、4日)、有明祭(10月13日)、古石塚文化センターまつり(9月7日)、豊洲フェスティバル(10月26、27日)NHKサイエンススタジアム2019(12月7、8日)、スポーツ医科学フェスティバル(2月16日)での鍼灸ブースの出店、などの大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。一時的なため計画主催の「一柱のゆめフェスタ2019 第2回あん摩マッサージ指圧コンテスト」に鍼灸センター担当教員、研修生等が中心となり協力するとともに本学を会場として開催し地域住民に手技療法の啓蒙・普及を行った(9月21日)。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。
		附属鍼灸センター	○		○	大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。	○	大学祭(11月3、4日)、有明祭(10月13日)、古石塚文化センターまつり(9月7日)、豊洲フェスティバル(10月26、27日)NHKサイエンススタジアム2019(12月7、8日)、スポーツ医科学フェスティバル(2月16日)での鍼灸ブースの出店、などの大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。一時的なため計画主催の「一柱のゆめフェスタ2019 第2回あん摩マッサージ指圧コンテスト」に鍼灸センター担当教員、研修生等が中心となり協力するとともに本学を会場として開催し地域住民に手技療法の啓蒙・普及を行った(9月21日)。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。		
106	市民公開講座の開催	○		○	更新についての検討を行ったが、まだ具体的な計画の策定には至っていない。	○	看護学科 近隣住民を対象に、健康教室を開催した。	○	看護学科 引き続き、市民公開講座の開催。	○	看護学科 引き続き、市民公開講座の開催。	○	看護学科 引き続き、市民公開講座の開催。			
		○		○	更新についての検討を行ったが、まだ具体的な計画の策定には至っていない。	○	看護学科 近隣住民を対象に、健康教室を開催した。	○	看護学科 引き続き、市民公開講座の開催。	○	看護学科 引き続き、市民公開講座の開催。	○	看護学科 引き続き、市民公開講座の開催。			
107	附属鍼灸センターの充実	○		○	鍼灸整備士の資格を持つ教員および大学院生が患者の施術に当たっている。また施術所内における各治療スペースは、パソコンで隔てており、患者のプライバシー保護に十分配慮している。	○	鍼灸整備士の資格を持つ教員および大学院生が患者の施術に当たっている。また施術所内における各治療スペースは、パソコンで隔てており、患者のプライバシー保護に十分配慮している。	○	附属鍼灸センター 引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。	○	附属鍼灸センター 引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。	○	附属鍼灸センター 引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。			
		○		○	鍼灸整備士の資格を持つ教員および大学院生が患者の施術に当たっている。また施術所内における各治療スペースは、パソコンで隔てており、患者のプライバシー保護に十分配慮している。	○	鍼灸整備士の資格を持つ教員および大学院生が患者の施術に当たっている。また施術所内における各治療スペースは、パソコンで隔てており、患者のプライバシー保護に十分配慮している。	○	附属鍼灸センター 引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。	○	附属鍼灸センター 引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。	○	附属鍼灸センター 引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。			
108	サーバの整備	○		○	情報センター 学術施設ファイルシステム用のサーバのライセンス契約が終了のため移行を実施。	○	情報センター 学術施設ファイルシステム用のサーバのライセンス契約が終了のため移行を実施。	○	情報センター 学術施設、ファイルサーバの更新の検討を開始。	○	情報センター 学術施設、ファイルサーバの更新に着手。	○	情報センター 学術施設、ファイルサーバの更新を完了。			
		○		○	情報センター 学術施設ファイルシステム用のサーバのライセンス契約が終了のため移行を実施。	○	情報センター 学術施設ファイルシステム用のサーバのライセンス契約が終了のため移行を実施。	○	情報センター 学術施設、ファイルサーバの更新の検討を開始。	○	情報センター 学術施設、ファイルサーバの更新に着手。	○	情報センター 学術施設、ファイルサーバの更新を完了。			
109	職員の業務用PCの整備	○		○	情報センター Windows7のサポート終了に備え学内すべてのWindowsマシンをWindows10に移行。	○	すべてのWindowsマシンをWindows10に移行した。	○	情報センター 引き続き、Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。	○	情報センター 引き続き、Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。	○	情報センター 引き続き、Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。			
		○		○	情報センター Windows7のサポート終了に備え学内すべてのWindowsマシンをWindows10に移行。	○	すべてのWindowsマシンをWindows10に移行した。	○	情報センター 引き続き、Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。	○	情報センター 引き続き、Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。	○	情報センター 引き続き、Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。			
110	コンピュータ教室	○		○	2019年度予算を確保し、メーカー仕様・見積り業者等を決めた。	○	71台の入れ替えは終了した。学習には好評で利用者が増えた。	○	情報センター 開学時より使用しているプロジェクトの入れ替えを検討。	○	情報センター プロジェクトの入れ替えを実施。	○	情報センター プロジェクトの入れ替えを実施。			
		○		○	2019年度予算を確保し、メーカー仕様・見積り業者等を決めた。	○	71台の入れ替えは終了した。学習には好評で利用者が増えた。	○	情報センター 開学時より使用しているプロジェクトの入れ替えを検討。	○	情報センター プロジェクトの入れ替えを実施。	○	情報センター プロジェクトの入れ替えを実施。			
111	セキュリティ対策	○		○	2019年2月に職員向けに講義を実施し、資料をポータルに掲載し、周知した。注意喚起することが出来た。	○	サイバー攻撃について情報収集は十分できた。通訳講習の方法とスマートフォンでの注意喚起について、調査検討する必要がある。	○	情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。	○	情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。	○	情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。			
		○		○	2019年2月に職員向けに講義を実施し、資料をポータルに掲載し、周知した。注意喚起することが出来た。	○	サイバー攻撃について情報収集は十分できた。通訳講習の方法とスマートフォンでの注意喚起について、調査検討する必要がある。	○	情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。	○	情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。	○	情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。			
112	安全衛生管理	○		○	衛生委員会 職場巡回やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会において調査、検討を実施。必要に応じて内容を見直し改善していく。	○	ストレスチェックの実行結果において、職場環境改善を目的とした調査会の開催を計画した。 職場巡回を終了することで職場環境の改善に関する意識が向上した。次年度、職場巡回計画、職場巡回チェックリストの見直しが必要と考えられる。	○	衛生委員会 引き続き、職場巡回やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会での結果の調査、検討を実施。必要に応じて改善する。	○	衛生委員会 引き続き、職場巡回やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会での結果の調査、検討を実施。必要に応じて改善する。	○	衛生委員会 引き続き、職場巡回やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会での結果の調査、検討を実施。必要に応じて改善する。			
		○		○	衛生委員会 職場巡回やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会において調査、検討を実施。必要に応じて内容を見直し改善していく。	○	ストレスチェックの実行結果において、職場環境改善を目的とした調査会の開催を計画した。 職場巡回を終了することで職場環境の改善に関する意識が向上した。次年度、職場巡回計画、職場巡回チェックリストの見直しが必要と考えられる。	○	衛生委員会 引き続き、職場巡回やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会での結果の調査、検討を実施。必要に応じて改善する。	○	衛生委員会 引き続き、職場巡回やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会での結果の調査、検討を実施。必要に応じて改善する。	○	衛生委員会 引き続き、職場巡回やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会での結果の調査、検討を実施。必要に応じて改善する。			